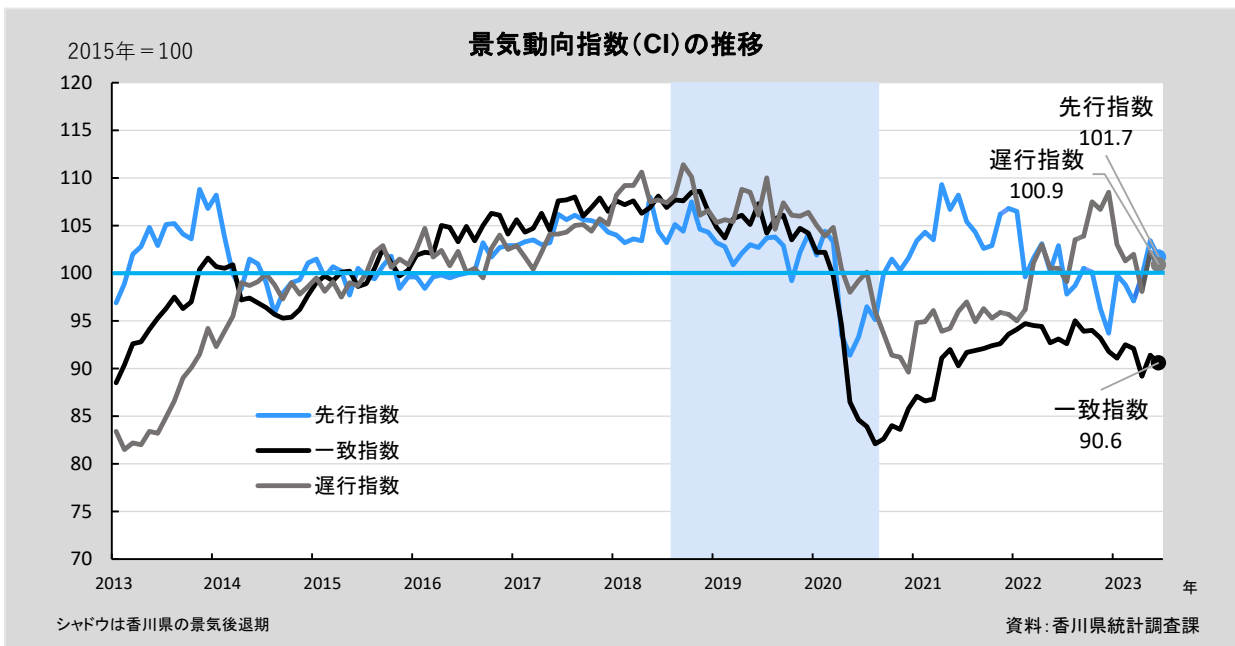


概況	景気は、緩やかに持ち直している。
個人消費	持ち直しの動きが続いている。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	横ばい圏内の動きとなっている。
生産活動	横ばい圏内の動きとなっている。
雇用情勢	緩やかに持ち直している。
貿易	輸出は増加、輸入は減少している。
観光	持ち直しの動きが続いている。

景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 2カ月ぶり下降



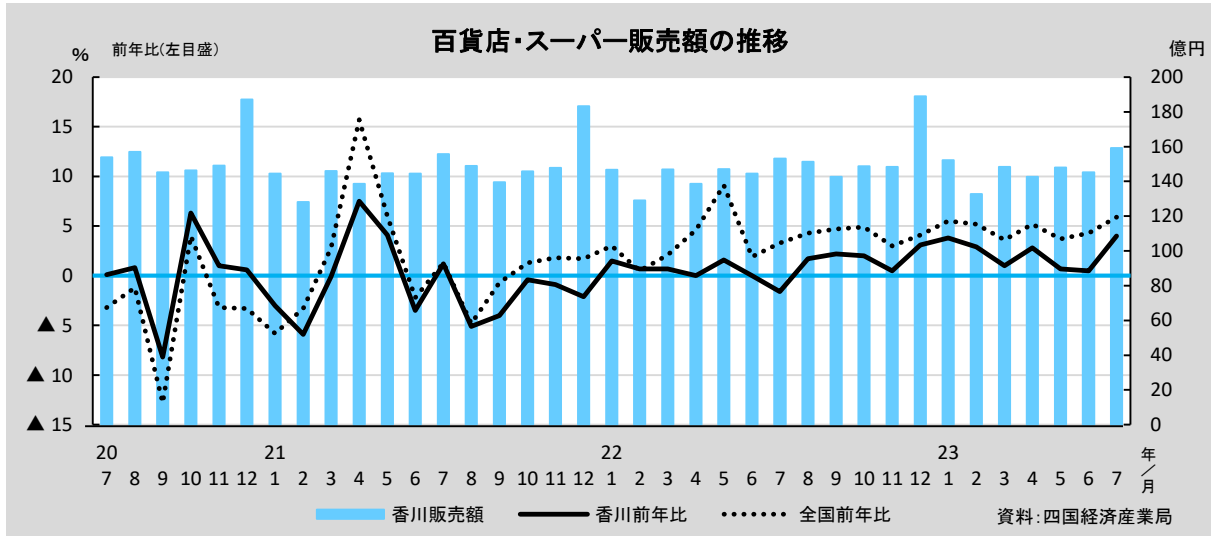
景気の現状をみると、6月のCI一致指数は90.6（前月比▲0.8ポイント）と2カ月ぶりに下降。CI先行指数は101.7（同▲1.7ポイント）と3カ月ぶりに下降。CI遅行指数は100.9（同▲1.3ポイント）と2カ月ぶりに下降。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、雇用保険受給者実人員、鉱工業出荷指数等が下降に寄与したことにより、前月から0.8ポイントの下降となった。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	▲ 0.15	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.85	1 常用雇用指数	▲ 0.64
	2 乗用車新車登録台数	0.00	2 有効求人倍率	0.18	2 有効求職者数	▲ 0.29
	3 鉱工業在庫率指数	▲ 1.28	3 所定外労働時間指数	0.07	3 消費者物価指数	0.71
	4 生産財生産指数	0.71	4 鉱工業生産指数	0.53	4 家計消費支出	▲ 0.40
	5 新設住宅着工戸数	0.30	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.73	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.14
	6 金融機関貸出残高	▲ 1.34	6 建築着工床面積	0.11	6 法人事業税調定額	▲ 0.14
	7 消費者態度指数	0.30	7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.07	7 第3次産業活動指数	▲ 0.14

●百貨店・スーパー販売額

12 カ月連続増加 ↑

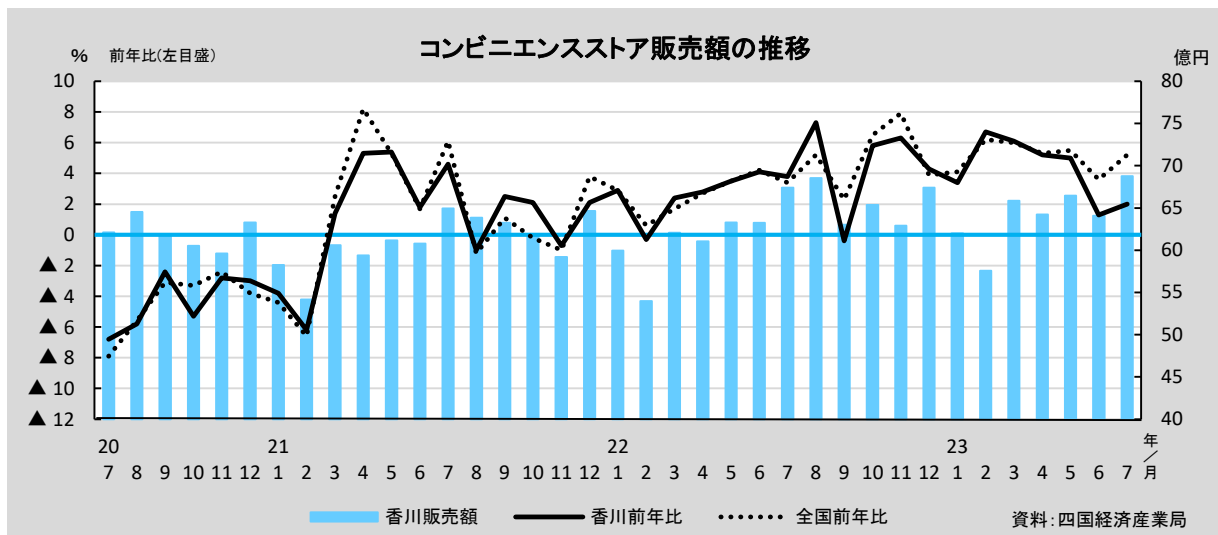


2023/7月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	115,894	69,946	1,162,336	2,621	6,532	72,815	161,898	650	1,592,692
前年同月比(%)	▲11.5	▲14.8	▲1.1	▲33.5	▲5.5	▲163.7	▲10.8	▲32.1	▲4.0

7月の百貨店・スーパー全店(84店)の販売額は159.3億円で、前年同月比+4.0%と12カ月連続で増加した。外出機会の増加等により「衣料品」は同+11.5%、「身の回り品」は同14.8%と伸長した。気温高の影響や中食需要の定着で「飲食料品」は同+1.1%と堅調に推移した。

●コンビニエンスストア販売額

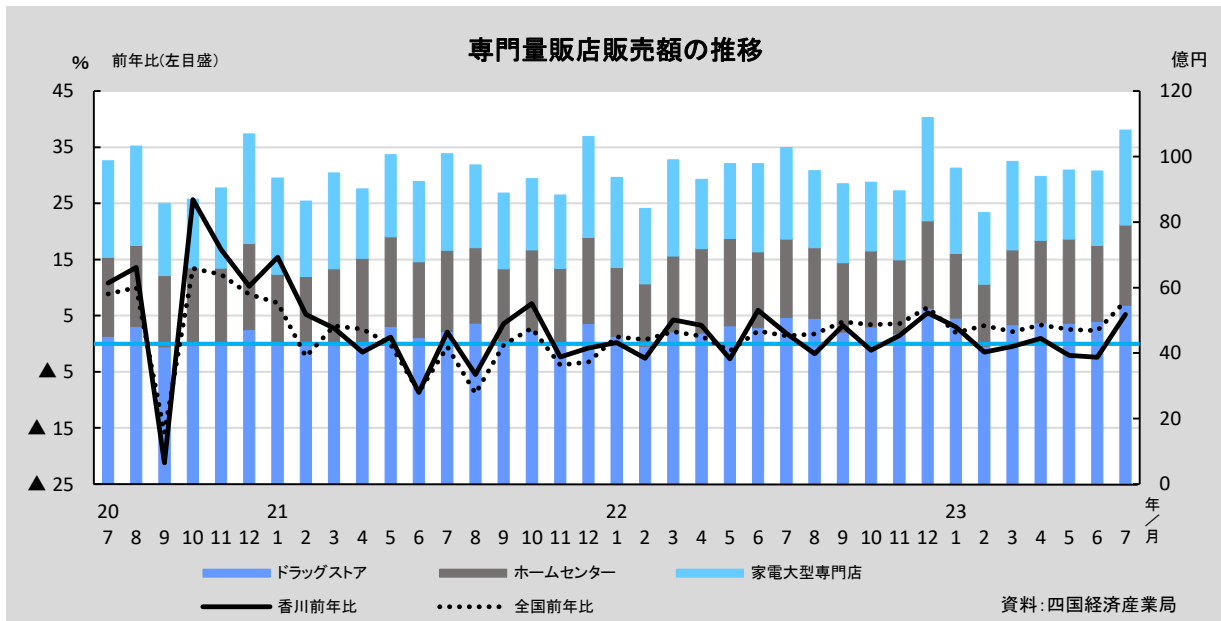
10 カ月連続増加 ↑



7月のコンビニエンスストア全店(402店)の販売額は68.8億円で、前年同月比+2.0%となった。商品価格の上昇分が販売額を押し上げたほか、販売促進効果もみられた。総菜・冷凍食品・菓子・ソフトドリンクなどが好調で、10カ月連続の増加となった。

●専門量販店販売額

3 カ月ぶり増加 ↑

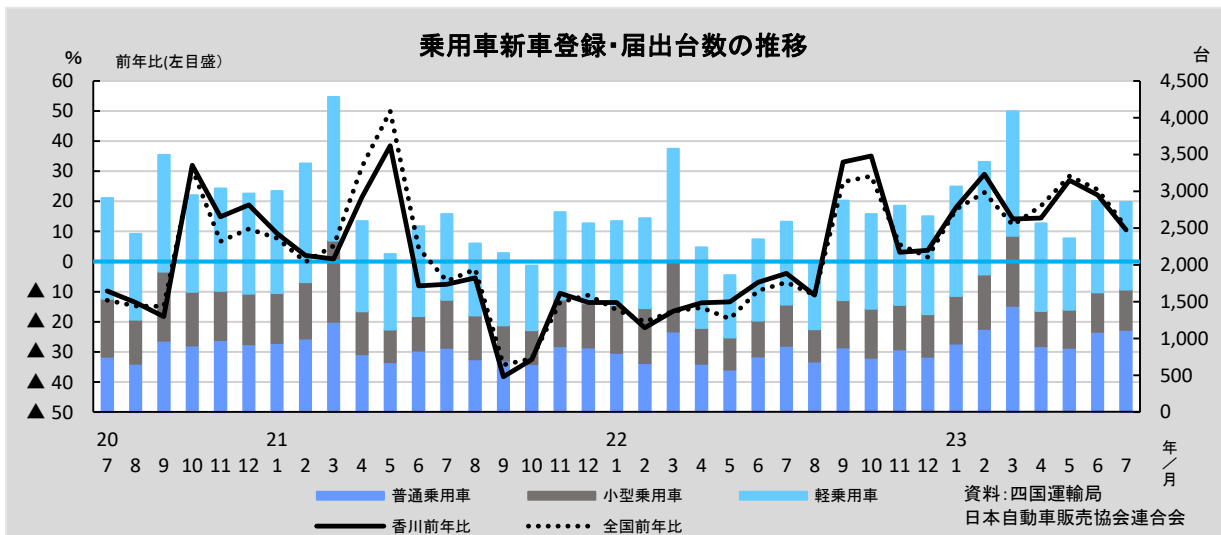


7月の専門量販店全店（212店）の販売額108.1億円で、前年同月比+5.2%と3カ月ぶりに増加した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（29店）は、気温高の影響でエアコンが伸び、販売額は29.0億円で前年同月比+4.1%、**ドラッグストア**（138店）は、冷凍食品・菓子などの食品の動きが良く、調剤医薬品が堅調に推移し、販売額は54.6億円で同+7.1%となった。**ホームセンター**（45店）は、気温高の影響によりエアコン等の季節商品が伸長し、販売額24.6億円で同+2.6%となった。

●乗用車新車販売台数

11 カ月連続増加 ↑



7月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,856台で、前年同月比+10.5%と11カ月連続で増加した。

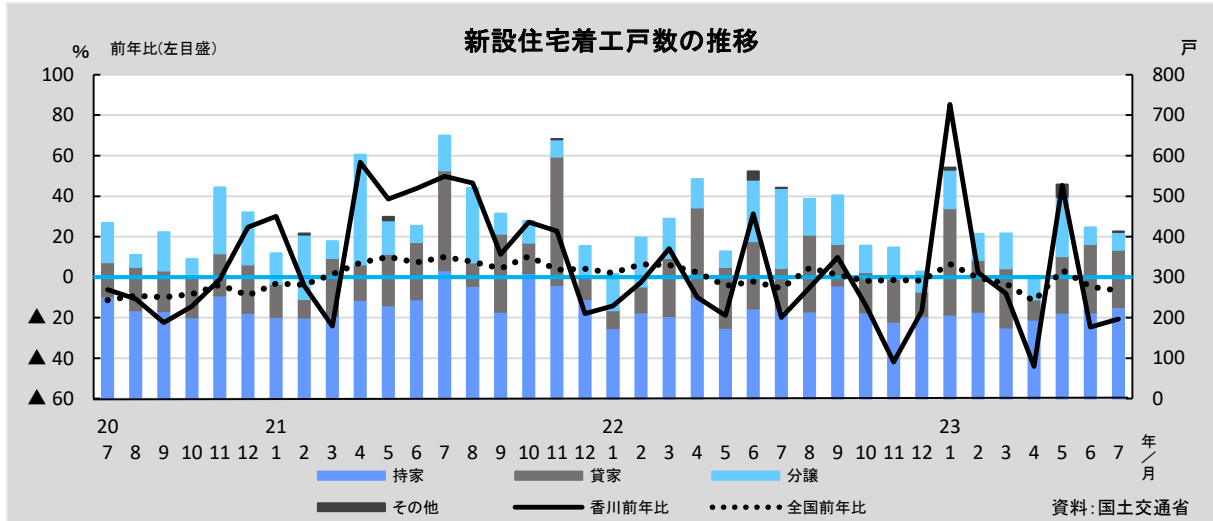
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+23.7%、小型乗用車で同▲1.6%、軽乗用車で同+5.9%となった。

住宅投資

低調に推移している

●新設住宅着工

2カ月連続減少 ↓



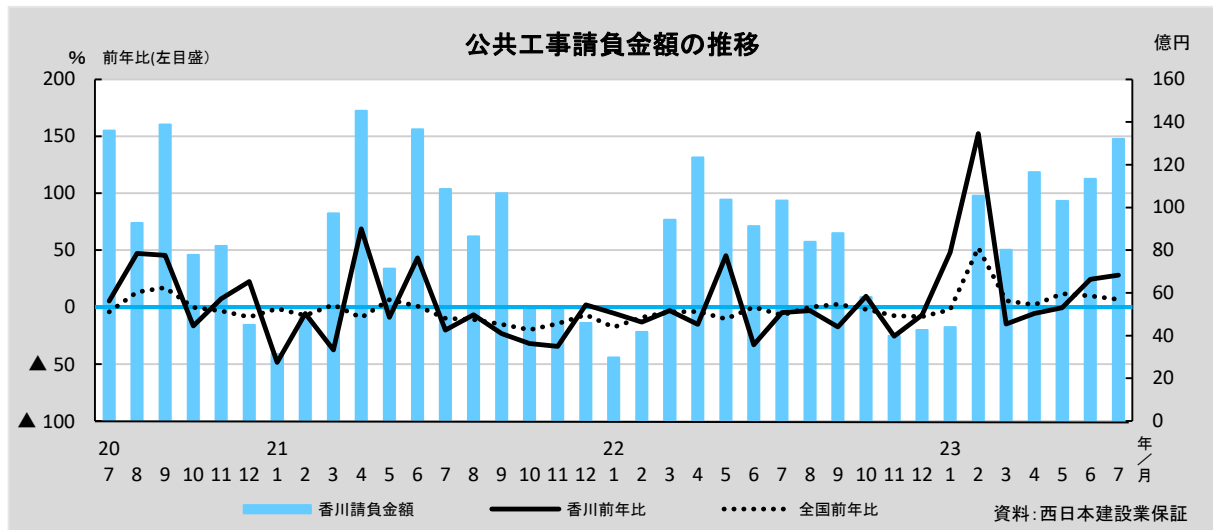
7月の新設住宅着工戸数は413戸で、前年同月比▲20.7%と2カ月連続で減少しました。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+2.3%、**貸家**で同+39.2%、**分譲住宅**で同▲77.7%となった。

公共投資

横ばい圏内の動きとなっている

●公共工事請負金額

2カ月連続増加 ↑



7月の公共工事請負金額は132.1億円で、前年同月比+28.0%と2カ月連続で増加しました。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+47.8%、**県**で同+4.4%、**市町**で同+37.8%となった。

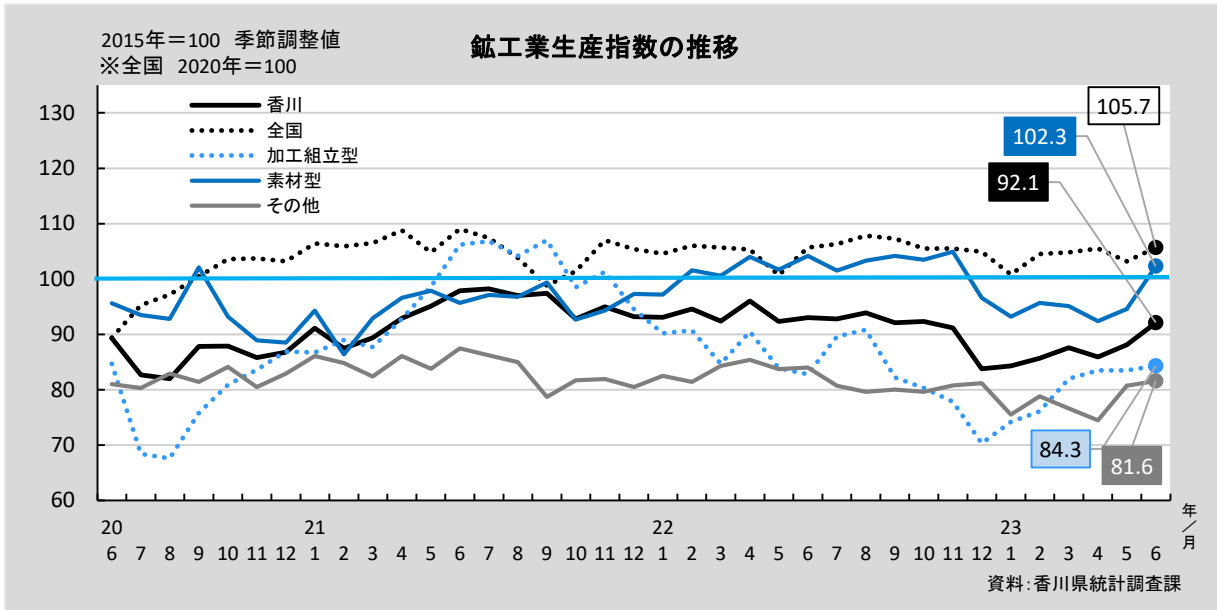
2023.4月～7月の累計では前年同期比10.4%増加している。

生産活動

横ばい圏内の動きとなっている

● 鉱工業生産指数

2 カ月連続上昇 ↑



6月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は92.1（前月88.1）となり、2カ月連続で上昇した。

業種別では素材型の非鉄金属工業（電気金など）は前月比+19.1%、加工組立型の電気機械工業（発光ダイオードなど）は同+9.9%と上昇した。

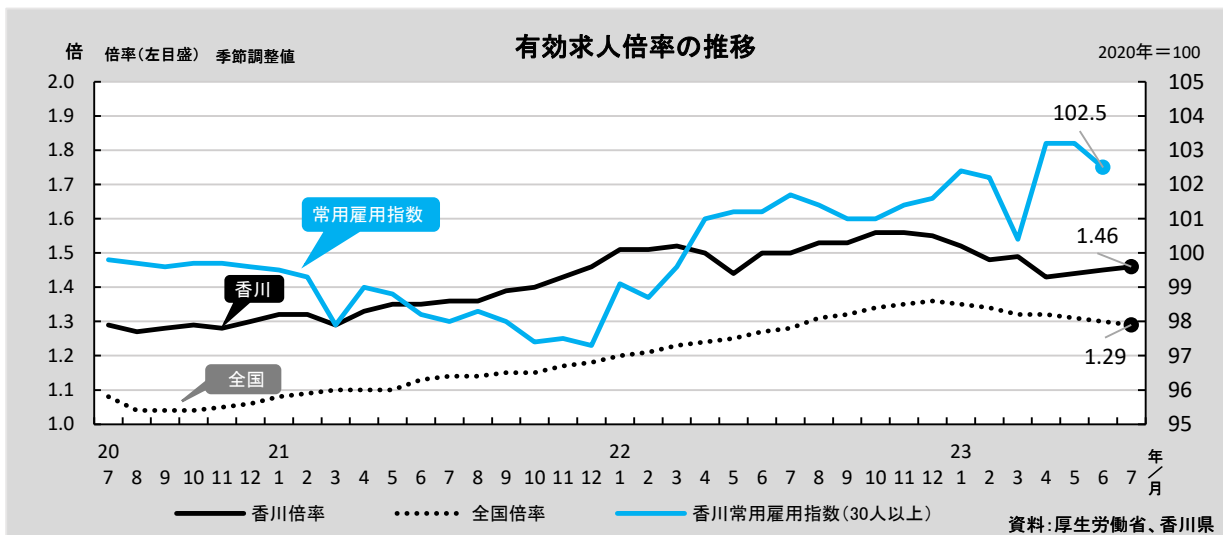
一方、加工組立型の輸送機械工業（鋼船など）は同▲7.6%と低下した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

3 カ月連続増加 ↑



7月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.46倍（全国10位）と前月より0.01ポイント上昇した。

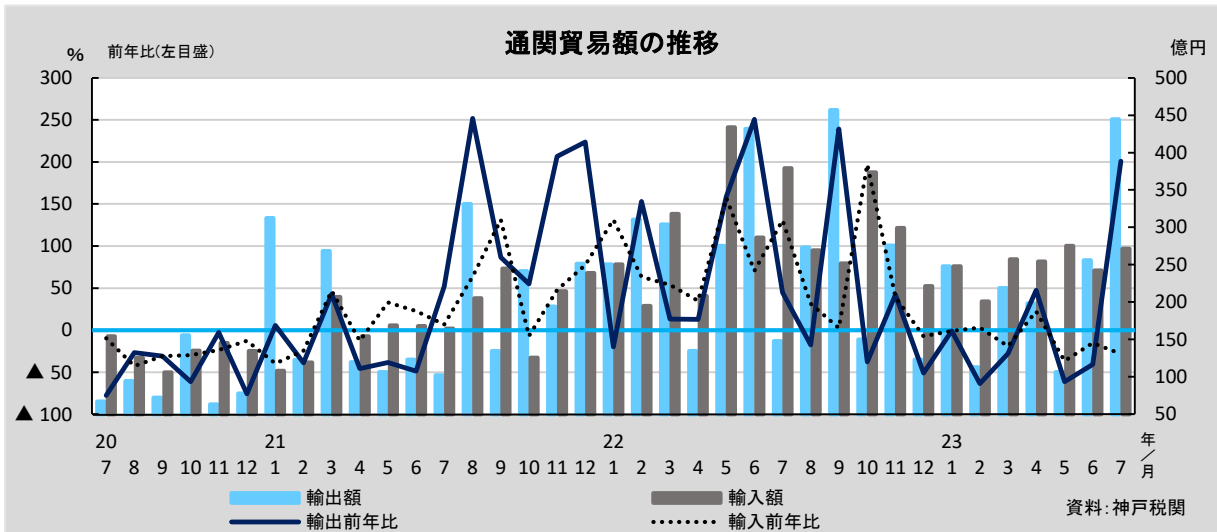
新規求人（原数値：前年同月比）は、鉱業・採石業・砂利採取業、情報通信業、農・林・漁業、宿泊業、飲食サービス業等で減少し、全体で▲1.0%と2カ月連続で減少した。

6月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、102.5となり、前年同月比は16カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業従事者	1.80
事務従事者	0.61
販売従事者	2.68
サービス職業従事者	3.22
生産工程従事者	2.25
輸送・機械運転従事者	2.22
建設・採掘従事者	6.71
運搬・清掃・包装等従事者	1.26

貿易

輸出は増加、輸入は減少している



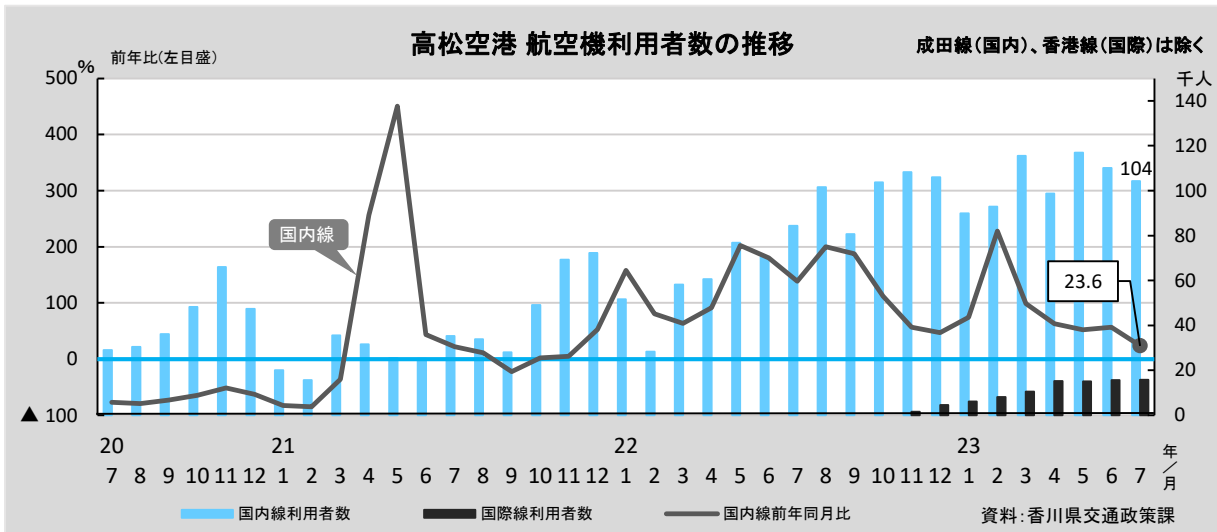
7月の輸出額は前年同月比+200.8%の444.4億円、輸入額は同▲28.3%の271.5億円となり、差し引き172.9億円の出超となっている。

輸出は、貨物船輸出額が前年同月比845倍の338億円となった。輸入は、石炭輸入額が同▲39.0%の107億円となった。

交通

国内線は22カ月連続増加、国際線は順調に増加

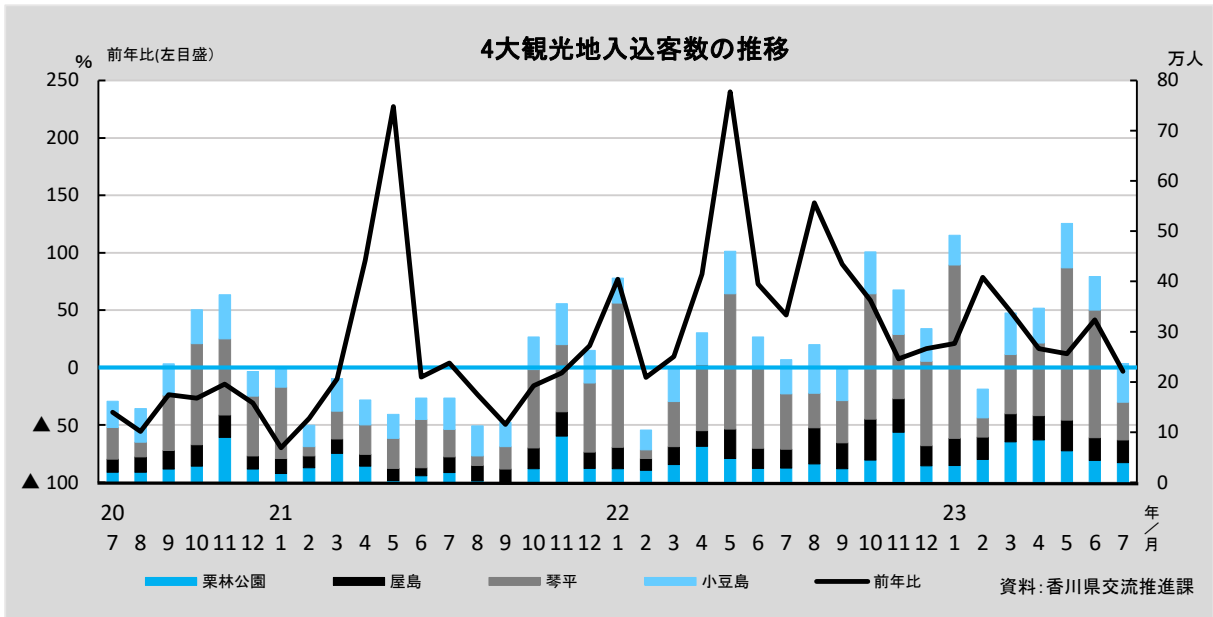
●高松空港旅客輸送実績



7月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が104,221人(前年同月比+23.6%)となり、22カ月連続で増加した。羽田線は96,310人(同+20.5%)、那覇線は7,911人(同+79.8%)となった。

国際線は、ソウル線が11,006人、台北線が4,795人で合計15,801人となった。国際線が再開して9カ月堅調に推移している。

●主要観光地入込客数

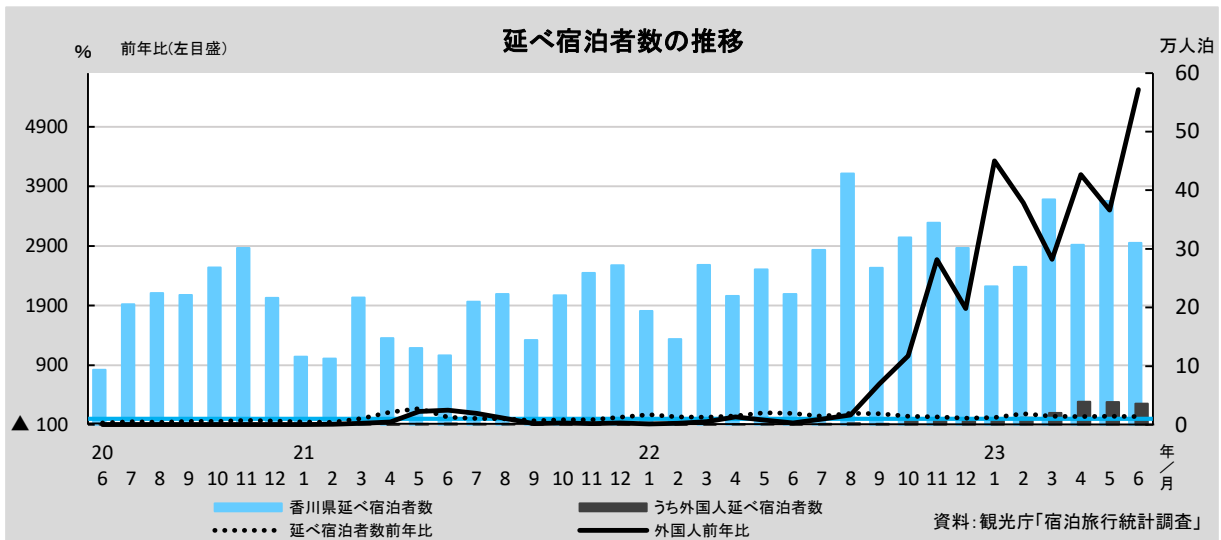


観光地入込客数		栗林公園		屋島		琴平		小豆島		合計	
7月(人)	前年同月比	39,245	38.9%	45,502	20.0%	75,000	▲31.8%	76,809	12.4%	236,556	▲3.3%
1~7月累計(人)		391,006	48.9%	354,164	31.5%	1,277,000	19.7%	501,837	16.6%	2,524,007	24.4%

7月の主要観光地の入込客数は、前年同月比▲3.3%と17カ月ぶりに減少した。栗林公園は前年同月比+38.9%、屋島は同+20.0%、小豆島は同+12.4%と前年を上回ったが、琴平は同▲31.8%と減少した。

1~7月の累計では前年比+24.4%となった。

●延べ宿泊者数



6月の延べ宿泊者数は310,430人で、前年同月比+39.1%と19カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲4.1%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数は35,990人となり、前年同月比+5,523.4%と11カ月連続で増加した。2019年同月比では▲31.8%となった。